

授業紹介 <絵・彫(デ)・工・映・他>

『題材名 ペーパーウエイト』

学校名 高知市立高知商業高等学校

教員名 堀 内 理 砂

#### 学校紹介・特色

本校は明治31（1898）年、簡易商業高校として開校。創立113年を迎える長い歴史と伝統を持つ県下唯一の市立高校であり、多くの卒業生が経済・産業・スポーツ界の各分野で活躍している。校是「報本反始（天地や先祖の恩恵や功績に感謝し、これに報いる決意を新たにすること）」の精神を基に、行事は伝統校らしく生徒主体で盛んであり、部活動も平成21年度、平成22年度と12種目全国大会出場を果たし活発である。また、生徒会を中心にラオスに学校を贈る国際協力活動を展開している。

市立の商業高校として、総合ビジネス科・情報システム科・国際コミュニケーション科の3学科を設置し、1学年8クラスの編成である。全クラス35人学級を実施し、少人数指導による学習活動を展開している。行事や生徒会活動・部活動を通して個性を伸ばすとともに、進路に役立つライセンスの取得やインターンシップにも力を入れており、進学・就職に向けて様々な取り組みが行われている。芸術科目は音楽・美術・書道の中から1科目を選択し、学科によって異なるが主に2年次に2単位の履修となっている。

対象学年： 2年生 人数 89名

所要時間： 12時間

#### 題材設定の理由

創造活動において人間の感覚の大切さを視覚だけではなく聴覚・触覚等も含めて意識することは、豊かなバランスの取れた感性を養うことにつながるのではないだろうかという思いから、この複合的な造形要素を持つ題材を設定した。

ペーパーウエイトは、大きさ5cm×5cm（厚さ3mm）の真鍮板を切削加工によって制作する。大きさを固定して難度の高い透かし彫りによる表現技法を設定した。用途はあるが視覚性が強く、目的や条件に合致したデザインを追及するというよりは、金属による浮き彫りや透かし彫りのレリーフとしての造形性を重視した課題である。

また、自分の思いを形にするには、金属を糸鋸で切る音・やすりで削る音や手触りを意識して金属特有の光の反射を注意深くとらえ、手作業による抵抗感に耐えて根気よく制作を進めなければならない。それゆえ、完成した喜びと達成感を生徒の大きな自信となるのではないだろうか。

準備するもの：真鍮の板（5 c m×5 c m×3 m m）、ボール盤、鉄工用やすり、糸鋸  
クランプ、耐水ペーパー、研磨剤、トレーシングペーパー、カーボン紙

- 手順：1，アイデアスケッチをもとにデザインを決定する。
- 2，デザイン画をトレーシングペーパーに写し、カーボン紙を下に敷き真鍮板に写し取る。油性マジックでその上から描く。
- 3，透かし彫りの透かす部分にボール盤で糸鋸刃を通すための穴と刃を方向転換させるための穴を開ける。
- 4，クランプで真鍮板を机に固定し、穴に糸鋸刃を通して切っていく。
- 5，切った透かし彫りの部分にやすりをかけて形を整える。  
（厚みを生かしてやすりで浮き彫りにする）
- 6，全体を耐水ペーパー（400番～2000番）で研磨する。
- 7，全体を研磨剤で磨く。完成。

#### コメント（まとめ）

透かし彫りによる表現の設定は難しすぎたのではないかと懸念されたが、生徒の充実感あふれる笑顔を見ていると、パワフルにやり遂げることかできたのではないかと思う。創造活動を通して自分の感性を磨き、信じることは、造形感覚を豊かにするとともに生き抜く力にもなるのではないだろうか。

